カイブリッジが開通した。

脱炭素に向けた取り組みにも尽力する。2020（令和2）年に脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定すると、2022（令和4）年には溝口周辺地域が国の脱炭素先行地域に認定され、2023（令和5）年には小売電気事業を行う「川崎未来エナジー株式会社」を設立した。

なお、市内でも新型コロナウィルス感染症による影響を大きく受けた。保健所、学校、保育園などに加え、企業支援や市民活動支援の窓口でもかつてない困難に直面した。市民から意見や要望を受け付ける「市長への手紙」は倍増し、コロナ禍をきっかけに生活上の困難を抱える市民は現在も少なくない。一方で、2023（令和5）年の「5類」移行に伴い、各区民祭やかわさき市民祭りが再開し、市制100周年に向けた「みんなの川崎祭」を開催した。川崎の貴重な地域資源である若者文化やスポーツがさらに注目を集める中、川崎市は100周年を迎える。

【参考資料等】

川崎市
『川崎市のあゆみ－指定都市の指定を記念して－』（1973年3月）

川崎市市民ミュージアム
『カワサキ・シティ　日本を牽引する街』（2013年10月）

株式会社郷土出版社
『目で見る　川崎市の100年』（1993年11月）

川崎市
『かわさきのあゆみ－写真でみる明治・大正・昭和－』（1986年3月）

川崎市市民ミュージアム
『産業都市・カワサキのあゆみ100年－進化しつづけるモノつくりの街－』（2007年9月）

コラム　100周年の「先輩」に聞く　味の素株式会社

川崎市が市制100周年を迎える中、市内には「先輩」として創立100周年を先に迎えた企業が存在している。その一つが川崎市を代表する企業である味の素株式会社（以下、「味の素」）だ。今回は川崎事業所の目黒さんに、100年前の様子や100周年事業として行ったことについて話を伺った。

味の素川崎工場は、京急大師線の鈴木町駅前に広大な敷地を構えている。鈴木町という地名は創業者・鈴木三郎助の名前に由来する。創業は1909（明治42）年で、鈴木氏は大きな河川が近く、なだらかで運送の利便さに恵まれた土地で大規模な生産設備を建設したいと考え、工場を逗子から多摩川河畔へ移転することを計画した。当初は六郷方面で進出を考えていたところ、住民からの反対運動が発生し移転計画は難航する。そのような中、対岸の川崎町で町長や地主などが工場誘致に熱心に働きかけてきたことから、川崎への移転が実現し、1914（大正3）年に川崎工場の操業が開始した。当時の職員は35名、技術員9名、職工95名という規模で、3年後には味の素グループの前身となる「株式会社鈴木商店」設立に至った。なお、調味料「味の素®」の名前の由来は「味の元」とのことで、1909（明治42）年に一般発売が開始されている。

発売した頃の「味の素®」▶

味の素では川崎事業所創立100周年記念事業として、2014（平成26）年に近隣住民を招待したイベントを実施した。タレントの潮田玲子さんのトークショーをはじめ、アジパンダ®との記念撮影コーナー、うま味計を使った実験やクイズ等、味の素ならではの企画を実施し、2,200名以上の来場があったという。また、川崎事業所の従業員約3,000名が100周年への思いを綴り「味の素®」の小瓶に詰めたモニュメントを制作したという。

▲従業員の思いが詰まったモニュメント

さらに、同時期に川崎事業所敷地内に一般用の見学施設を作るとともに、近隣住民が憩いの場として利用できるようカフェの誘致や保育園設置のための土地貸与を行うなど、地域との関係を強化する取り組みを実施し、川崎市より一足早く、次の100年に向けたスタートを切っている。